

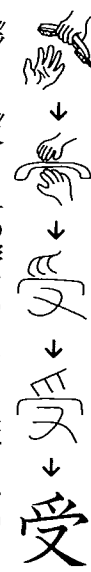
受

三年

画数 8
筆順

うける 受
うける 受

成り立ち



「受」も「又」も手の形をあらわした字です。「手から手へと、もの(一)を「うけわたし」する」ことをあらわした字です。

ものを「うける(受け取る)」といういみの字です。また、「しけんを「うける」といういみにもつかいます。また、「しけんに「うかる」というようにもつかいます。

〔受は、中国音では「手」と同じであり、また「授」とも同じである。つまり、「受」も「授」も、「手」と同音同語なのである。中国語では、「手」が名詞として使われるだけでなく、動詞としても使われていて、それを文字として区別することになったものである。〕

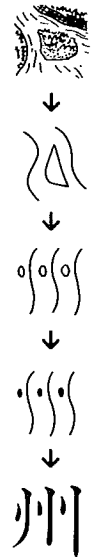
州

三年

画数 6
筆順

リ州 州
シユウ 州
クン 州

成り立ち



川のながれの中にできた「すなのしま」をあらわした字です。すなのしまのことを「す」といいますが、川の中にあるので、「なかす」といい、「中州」とかいています。

中国では、むかし、国を九つに分け、これに「州」という名前をつけました。それで、わが国でも、紀伊国を紀州、尾張国を尾州などといいました。

〔この字の漢音はシユウで、呉音はスである。したがって訓の「す」は、実は呉音であって、本当は訓ではない。「周・修・主」など、漢音でシユウと発音される字は、皆、呉音ではスと発音されるのである。〕

使い方

▽おにいさんと、キャッチボールをしました。ボールは、なげるより受け取るほうが、むずかしいです。
▽おねえさんは、中学校を受験しました。うんよく受かったので、みんな大よろこびしました。

熟語例

- ▽受験(シユケン) (試験を受けること。とくに、入学試験を受けることをいいます。)
- ▽受話器(シユワキ) (電話で、あい手の話を受ける器具。「受話器をおくときは、あい手が電話を切ったことをたしかめてから、そつとおくようにしましょう」などというふうになります。)
- ▽授受(シユシユ) (授けることと、受けること。受けわたしのこと。「しようひんの授受が、おごそかにおこなわれた」などというふうになり、つかいます。)
- ▽受賞(シユキョウ) (賞を受けること。賞状・賞品・賞金などを受けること。)
- ▽受難(シユナン) (災難を受けること。とくに、イエス・キリストの受難をさすことがあります。「キリストは、十字架にかけられるという受難に遭われた」など)

使い方

- ▽三角州(シヤウカウ) (河口近くにできる、三角形の砂地です。デルタとも呼ばれます。)
- ▽中州(チュウシュウ) (よく鳥が集まって、えさをさがしている姿が見られます。)

熟語例

- ▽砂州(サシュウ) (川の流に運ばれた砂が、河口に積もってできた州。)
- ▽神州(シンシュウ) (神の国、といういみで、むかし、日本や中国で、自分の国のことを、こう呼びました。神様のおさめている、すばらしい国、といういみです。)
- ▽欧州(シユウシュウ) (西欧の国々、といういみです。ヨーロッパのことです。)
- ▽三角州(シヤウカウ) (河口近くにできる州は、三角形をしているので、三角州といえます。河口近くの州のこと。)